

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問数は3題で変化ないが、ページ数(昨年7ページ、今年5ページ)が減少した。設問の総数はほぼ同じで、論述問題の数(昨年4題、今年4題)も変わらないが、導出過程を記述する計算問題の数(昨年4題、今年3題)は1題減少し、全体としての分量はやや減少した。

IIの構造異性体を見落としなく数えるためには注意力を要した。IIIの実験は100℃での気体の体積が判断しにくい。また、分子からなる物質の沸点に関する理由説明は難しい。しかし、その他は取り組みやすく、煩雑な計算もなかったため、全体としては昨年よりやや易しかった。

出題の特徴や昨年との変更点

論述問題、答の導出過程を記述する問題が例年どおり出題された。また、答の数値に関する桁数の指定がなく、自ら判断する計算問題も出題された。

歴史的な実験装置・実験方法に関する問題も例年と同様に出現された。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述, 論述 計算	理論, 無機, 有機	化学基礎 化学	窒素とその化合物, 核酸, COD	やや易
II	記述, 計算	有機	化学	脂肪族・芳香族化合物, ナイロン	標準
III	記述, 論述 選択, 計算	理論, 無機	化学	気体, 分子からなる物質の沸点, 二酸化硫黄および硫酸の製法と性質	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基礎～標準的な難易度の問題が大部分を占めるが、一部、思考力・応用力を要する問題も含まれる。

基礎力を確立した上で、数多くの演習問題にあたり、思考力・応用力を培うよう努めること。論述問題が頻出なので、理由説明や推論の過程、答の導出過程を簡潔に記述する練習も日ごろから積んでおくこと。また、実験操作や実験結果を予測したり考察する問題が出題されることもあるので、実験に関する問題にも意識的に取り組んでおきたい。